

■大学めぐり第2回“東京都立大学”・“九州工業大学”の巻

■九州地区土木系学生会 昭和40年度活動報告

東京都立大学の巻

東京都立大学は旧制度の都立高校と5つの専門学校を母体として、昭和24年に新制総合大学として発足し、現在4学部学生数約2500人の小じんまりとした大学で学生数に比べ先生の数が多くマスプロ教育からほど遠く、現在の日本の大学としては理想的な大学である。本学の一大特色として昼夜開講制があり、全学部にわたって昼間と同じ先生による講義が夜にもなされ、昼間夜間ある程度自由に受講できる仕組みになっており、入学時のA類(昼間学生)、B類(夜間学生)の区別は実質的になく、昼間勉強する学生のみならず勤労学生の資質向上に大きく貢献している。しかし大学全体から見て学生数の少ないこともあって、研究費および学生経費が非常に少なく問題となっている。

工学部は土木工学科をはじめとして5学科あり、品川区鮫州から36年に世田谷区深沢に移転しまだ新しく、一応諸施設は完備しているが、敷地いっばいに建てられているため現在すでに工学部の中は諸々の面において飽和状態となっていて増設できないのが現状である。校舎の正面は駒沢オリンピック公園に接し、一方では閑静な住宅地をひかえ、窓の外に遠く都心を望み、さらに丹沢

都立大学工学部全景



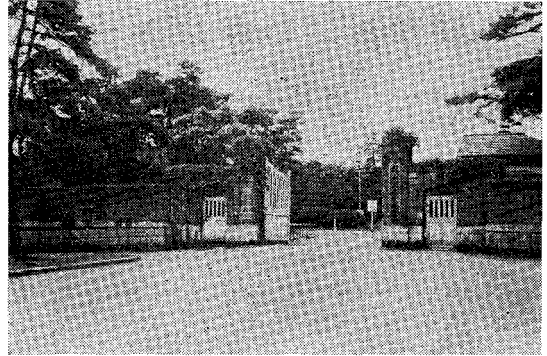
・富士山を眺めることのできるすばらしい所に位置している。工学部の近くには雀荘はおろか喫茶店の一つも捜すことができないことは幸か不幸か。

土木工学科は一学年定員30名で、このうちA類25名、B類5名となっている。実験・実習は少人数でやりたいだけ十分できるし講義も障害なく受けることができ、十分勉学の機会是与えられているが、反面学生数が少ないためか、クラスの中に良い意味の競争等もなく空気が沈滞する嫌いがあり、もっと全員はりのある人間になろうと刺激しあっている。われわれは学科別に入学し、二年のうちのクラス分けは工学部全部を通して編成され、二年で一部学科別にわかれた講義を受け、土木の場合応力・水理・コンクリート・測量等の基礎科目を学び、教養科目とともに語学を二年間とも週4時間受けることになっている。三年では一週間のうちあいている時間は全くなく、土木工学の大部分をすましてしまい、四年では土質・水理実験や衛生・水工計画製図などがあり、大部分は卒業研究の方に主力が置かれている。大学の規模が小さいためか講座数は4講座で水工、衛生、構造、交通があり、さらに充実することが叫ばれている。大学院は修士課程があり、近々博士課程も設けられる予定である。教授、助教授は総計8名でその他国鉄や諸研究所や民間会社から多数講師としてきていただいている。教授陣には、今年限りで定年退職される元運輸省港湾局長で水工の渡部教授、放射性廃棄物の処理研究に活躍されている衛生工学の左倉教授、橋梁の振動を研究されている奥田教授、現在イギリスへ研究留学されている交通の井上教授がおり、助教授陣には、水工の丸井助教授、衛生の佐藤助教授、トンネルの覆工に生じる応力を研究されている光弾性の山本助教授、コンクリート研究の方面で活躍中の吉田賞を受けられた村田助教授がおられる。

本学科卒業生は、昭和28年の第1回卒業生が5名で、その後毎年順次増加し、現在13回、合計180名を数えるに至っている。第1回卒業生は30代の働き盛り、課長クラスといった所である。就職先は、民間が官庁より少し多く、だいたい大企業である。官庁では、地元の東京都庁が目立ち、その他、建設省、運輸省、北海道開発局、神奈川県庁等である。また公社公団関係としては、道路公団、首都高速、国鉄等が多い。

創立間もない本校であるが、先輩のご努力により、そ

の存在が一般に認識されてきており、われわれ在学中の者としても心強いしだいである。



## 九州工業大学の巻

スモッグで昼なお暗い北九州工業地帯のど真中、戸畑の地に緑の森で囲まれたオアシスのごとき環境にわれらの学校はある。

創立は遠く明治 43 年にさかのぼり、当時唯一の 4 年制工業専門学校の「明専」として世に知られ、昭和 24 年改称して現在の九州工大となった。

さて、われわれの開発土木科であるが、前進は鉱山科で昭和 39 年に発足し、来年度第 1 期生を世に問うものである。従来の土木工学科に古く鉱山科より伝統ある地質学あるいは鉱物学的要素を加味した、基礎土木に重点を置くユニークな存在の学科である。

そのため他の土木科にないような異色ある科目が多くその 2, 3 を紹介しよう。

従来土木に欠けていた地質学的な見地からの研究をする「地質工学」、**“水理地質”**、**“土土地質”** 土質関係で最も大きな問題である軟弱地盤を取り扱かう**“軟弱地盤”**、**“粉体工学”**や従来の鉱山の伝統を受け継いだ**“岩**

盤力学”、**“試錐”**、**“ずい道”**、**“立坑開さく”**等が異色な学科として上げられよう。

教授陣には講義用のプリントに常にドイツ語と高等数学が出て学生なかせの土質力学の吉武教授。**“鉄筋の付着ならびにプレストレスト コンクリートの付着長に関する研究”**で一昨年博士号をとられ P C 関係で大活躍の若手ホープ渡辺助教授、粘土の鉱物学的分析で多忙の地質学の村田教授等、優秀なスタッフが揃っている。

それに応えるように学生も学年定員 30 人と小人数のためまとまりも良く、新しい学科のせいもあって皆張切っており、教官官舎が学内にある関係で教官の家に押しかけ師弟、杯をくみかわすという光景も珍らしくない。

### 九州地区土木系学生会 昭和 40 年度活動報告

(1) 昭和 40 年 5 月、映写会 (於九州大学、内容:「一ッ瀬ダム」,「豪雪にきづく」,「東海道新幹線」)

(2) 6 月、スポーツ大会 (於九州大学)

(3) 6 月、映写会 (於九州大学)、内容:「名神高速道路」,「イコス工法」

(4) 8 月、全国大会 (於関東地区)、九州地区からの出席者 30 人

(5) 10 月 24 日、第 3 回九州地区幹事会、規約 (昭和 38 年度立案を一部改めて承認)、機関紙発行を決議、春の九

州大会を決議

(6) 11 月 14 日、講演会と映写会 (於明治生命ホール)、講師 九州大学助教授 山内豊聡・「アメリカ、カナダ、メキシコの大学について」、運輸省博多港所長 海見尚雄・「港湾事業について」、映画「淀川水資源開発」,「鶴田ダム」

(7) 11 月 27 日、ダンスパーティー、機関紙発行のための資金カンパ

(8) 10 月 30~2 月、機関誌編集「パイル」

(9) 12 月 4 日、天草架橋見学会 (福大、産大)

(10) 19 日、天草架橋見学会 (九大)

(11) 昭和 41 年 1 月末日 天草架橋見学会 (熊大)

(12) 12 月 24 日、機関紙合同編集会 (場所:九州大学)

(13) 12 月 25 日、第 4 回九州地区幹事会、決議事項:① 組織 (昭和 41 年役員選出)、② 会計 (会費徴収方法)、③ 昭和 41 年活動予定表作成 (昭和 41 年 3 月 土木学会幹事会提出)、④ 昭和 41 年度機関紙「パイル」当番校、⑤ 九州大会 (具体案の作成)、⑥ 昭和 41 年全国大会審議委員会設置、⑦ 全国ブロックとの関係ならびに学会との関係

(14) 3 月 30・31 日、九州大会 (宮崎大学にて)

(15) 3 月 31 日夜、幹事会

## 第 2 回 異形鉄筋シンポジウム

— コンクリート・ライブラリー第 14 号 —

標記の図書が新しく土木学会より刊行されました。本書には異形鉄筋のデフォーメーションの細部が、その付着性状や耐疲労性におよぼす影響を詳細に論じたものや、付着性状の新しい試験方法について論じたものなど 19 編の論文が集録されておりますので貴重な参考資料となることを確信しご一読をおすすめします。

体 裁: B 5 判 236 ページ

定 価: 1100 円

会員特価: 900 円

送料: 100 円

## 国際会議のお知らせ

### (1) 10th Congress of the International Federation of Landscape Architects (IFLA)

Date: 6th-12th June, 1966 (Excursions 13th-21st June, 1966)

Place: Stuttgart, in Germany

Theme: "The Landscape Architect in Town and Landscape Planning"

くわしくは土木学会編集課 電話 東京 (351) 5130 までお問合せ下さい。

### (2) STAHLBAUTAGUNG 会議

題 目: Stahl im Industrie- und Brückenbau

期 日: 1967年9月18~23日

場 所: Dresden

連絡先: Technisch Universität Dresden

Lehrstuhl für Statik der Baukonstruktionen und Stahlbau

Prof. Dr. Ing. habil. Bürgermeister

8027 Dresden, George-Bähr-Str. 1

波木 守・大浜嘉彦 共著

## プラスチックコンクリート

### A5判 315頁 上製函入

定価 1,300円 千120

好評発売中

(土木学会誌3月号に)  
書評掲載

推薦のこたば

大阪市立大学工学部教授・工博 井本 稔

大へんな本ができたと思う。有機高分子材料を建設の分野に大量に使用することは、土木建築業界における本質的な技術革新を意味する上に、プラスチックやセメント工業、ひいては石油化学工業をはじめとする日本の諸製造工業にも影響するであろう。とくにプラスチックコンクリートはその中心の問題の1つである。

ここに膨大な資料を整理して、深く掘り下げた本書は、今後の研究・開発の基礎となるものであろう。関係者の注意の焦点となる本であることと信ずる。

井本 稔 監修  
月刊 **接 着**  
Adhesion and Adhesives  
(1957年1月創刊)

本誌は接着に関する総説、理論、技術資料、新しい研究報告、製品等を紹介し、世界でも類例のない接着専門誌として、学界、業界の注目をあびています。

購読会員がおとくです  
定価1部 300円 (千24円)  
購読会費 2年 5,000円  
1年 3,000円 半年 1,600円

## 高分子刊行会

京都市上京区智恵光院丸太町下ル 電 84-4 4 5 5  
東京都中央区日本橋室町1の2 電 241-4880・4890  
大阪市天王寺区玉造元町7 電 761-7 2 0 2